

また、平成27年度からは、食の安全・安心の向上ため、薬品残渣の抜き打ち検査を実施しており、消費者からも好評を得ています。

厚生文教常任委員会

◎北海道二笠市

●小中一貫教育(コミュニティスクール)

三笠市では、平成23年度に学校統合(小学校は5校からへ2校、中学校は3校から2校)を実施しました。

地域事情が異なる地区が同じ学区となり、地域連携の希薄化が懸念されたため、地域住民が関わりやすい環境づくりとして、文部科学省から2年間の研究指定を受け、コミュニティスクール(学校運営協議会制度)を北海道内で初めて導入しました。

この協議会は、教育活動がスムーズに展開されるよう地域住民が中心となり、教育活動に協力していく組織で、法的な権限と責任を有するものです。

また、小中一貫教育を市内すべてで展開し、「人間性豊かな児童生徒の育成」と「地域に開かれた学校づくり」を推進しています。

学年区分を2・3・4年制にし、中一ギャップの解消、中学校英語科へのスムーズな接続など、小学校と中学校のカリキュラムの無理のない接続を図っています。

◎北海道北広島市

●土曜授業

北海道内では、学校教育法施行規則の改正や、国の土曜日の教育活動の推進方針を受け、土曜日の豊かな教育環境の構築が進んでいます。

北広島市では、開かれた学校づくりをさらに推進するため、平成27年度から土曜授業を開始し、現在、年2回実施し、すべての授業時間を公開しています。

特徴的な取り組みとして、保護者を対象とした「携帯電話安全教室」や地域住民や企業による「昔あそび」「バター作り」「白杖体験」「化石のシリカ作り」などを実施しています。

●エコミュージアム構想

北広島市は、特筆すべき遺産が数多く存在しており、伝統的なものが失われていくことが危惧されています。

しかし、郷土資料館のような核的施設がなかったため、ある一定の文化圏を構成する地域の生活・自然・文化などの発展過程を遺産として現地で保存・育成・展示するため、エコミュージアム(野外博物館)構想を策定しました。

平成26年7月、旧広葉小学校が交流センターとして生まれ変わり、その中に「エコミュージアムセンター・知新の駅」をオープンさせ、文化・歴史遺産等の収集・発信・提供・展示等を行っています。運営は、住民参加を原則とし、普通の博物館と違い、コアと呼ぶ中核施設と、文化・産業などの遺産を展示するサテライト、新たな発見を見出す小径(デイスカバリートレイル)を配置し、来訪者が地域社会をより積極的に理解する形で行われています。

事業内容は、人づくりにつながる市民大学の運営、地域遺産発見バスツアーや体験教室などのソフト事業と施設設備などを行うハード事業を行っています。

◎北海道登別市

●高齢者等の福祉施策(認知症支援)

登別市の高齢化率は33.6%、今後とも人口減少と高齢化が進むと予想されています。「安心して老いを迎えることができるまちへ」を登別版地方創生としています。

登別市では、認知症支援事業として認知症高齢者等GP



登別市での行政視察研修

S貸与事業(平成27年度開始)を実施しています。

その目的は、認知症高齢者等を介護している家族が安心して介護できる環境にすることです。長時間の搜索で発見できない場合、生命の危険につながるため、はいかひの恐れがある方の衣服や持ち物にGPS機器を装着し、家族等が携帯電話等のGPS機能を活用して搜索するものです。行方不明時は、まず家族等が10分程度搜索し、見つからない場合、家族からの通報によりSOSネットワークシステム(平成24年度開始)をあわせて活用し、搜索を行うことで、早期発見につながります。

また、ネットワークの構築を目的に、はいかひ模擬訓練(平成26年度開始)を、市内3つの包括支援センターで同時に実施しています。

はいかひ高齢者役(センター職員)の特徴を統一し、SOSネットワークシステムを利用して情報を配信し、目撃情報の通報により早期発見に努めています。